自律　共想　郷生

ＩＣＴ教育通信

令和４（２０２２）年１２月７日
第７号　　小郡市教育委員会

１２月５日第６回小郡市ＩＣＴ教育推進委員会（大原中学校公開授業）を開催しました。

【公開授業について】

第３学年２組　美術科　単元名「大原中文化を後輩に伝え残すための立体作品をつくろう」　　指導者　福田　圭佑　先生

［授業の概要］
　生徒は前時までに、後輩に残し伝えたい大原中文化をイメージマップ等で練り上げ、アイデアスケッチで視覚化した後、立体作品（紙粘土）を制作しています。本時では、作品の主題が観る人によりよく伝わるよう、大原中学校の風景写真と立体作品（写真）をタブレット上で合成する活動を行いました。また、合成した作品を班で交流し、改善する視点を見つけていきました。

①

主題：自問清掃

主題：黙想

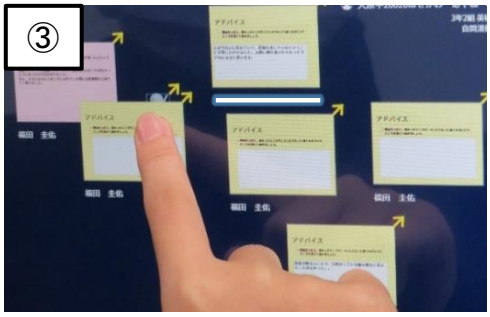
主題：主張文

①「さぐる・ふかめる段階」では、作品の主題（自分の思い、願い）がよりよく伝わるよう立体作品と学校の風景写真を「フォトアプリ」を使って合成・加工しました。学校の風景写真を背景として表現効果を考え、編集することで、立体作品に込めた思いがより鮮明になりました。また、教師が説明の中で「肖像権」等について取り上げ、意図的に情報モラルに係る指導をしました。

②

②「見つめなおす段階」では、作品に込めた自分の思いや工夫の伝わり方を見直すために、合成・加工した画像を使って班で交流しました。周りの友達の反応を見ながら説明し、自分の思いがのどくらい伝わっているかを感じ取っていました。また、交流後は、感想やアドバイスをロイロノートに記入し、発表者に送付しました。

③



③「まとめの段階」では、友達からもらったアドバイスカードをもとに、自分の作品のよさや改善点をふり返りました。
カードは、見分けやすいように「アドバイスカード」を黄色、「振り返りカード」を水色と変えて作成していました。
　「背景を明るくするともっと作品が際立つと思います。（明度の工夫）」や「作品の色を青色（体育大会のブロックの色）にするともっと伝わりやすいよ。（色の工夫）」等、明度や色彩などの造形的な視点からアドバイスしていました。

大原中学校　主幹教諭　小島　章稔

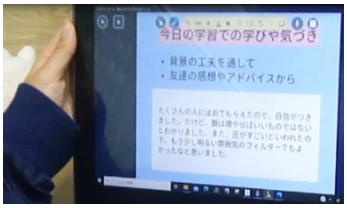
　ＧＩＧＡスクール構想が進む中、大原中学校では、「誰もが楽しくＩＣＴを活用できるようになろう」をスローガンに段階的にタブレットを活用していくようにしていきました。初年度は、生徒も教員もタブレットを「まずは使ってみること」に重点を置き、とにかく可能性があるものには積極的にタブレットを活用していきました。その際、ＩＣＴ推進委員を中心に校内研修や放課後の学習会（任意参加）を開催し、基本的な操作や機能について体験したり、授業や学校行事での活用を考えたりしました。研修は、操作が得意な教員と苦手な教員をペアにして教え合いながら進めるように心がけました。
　２年目の今年度は、研究主題「考える力を育む学習活動の創造～（目的）（場）を明らかにしたＩＣＴの活用を通して～」の下、授業研究では全教科でＩＣＴを活用し、研究を進めてきました。教員間の温度差を無くすために、各学年からＰＣが得意な先生に研究推進部に入ってもらい、その先生を中心に学年のＩＣＴ教育を推進したり、ベテラン教員が活用している場面を紹介したり、ＩＣＴ支援員を活用したりしています。これらの取組により、現在では、教員も生徒も楽しく日常的にタブレットを活用できるようになっていると感じます。これからは、生徒自らが主体的に様々な場で活用するような姿を目指したいと思います。

「自己調整」しながら自ら学び進める大原中生徒の『主体的』な姿

教育長　秋永

福岡教育大学の生田淳一教授は、これから求められる『主体的な学び』の姿の条件として、「自分の学びの過程に目を向けていること」「自ら学習のサイクルを回していること」を挙げられています。

大原中美術の授業の終末で、ある生徒は本時の学びを振り返って次のように記述し発表しました。「たくさんの人にほめてもらえたので、自信がつきました。だけど数は増やせばいいものではないとわかりました。また、圧がすごいと言われたので、もう少し明るい雰囲気のフィルターでもよかったと思いました。」この生徒は、グループでの対話を通して、自分のアイディア（授業終了時にみんな揃って「黙想」を行う大原中の伝統を伝えるために、目をつぶっている友達の顔を数多く作品上に配置した）を認めてもらえたことに喜びを感じています。一方、改善の方向性として、顔の数を適切に調整したい・背景にした教室写真の感じをもっと明るい雰囲気にしたいという二つポイントを、友達からのアドバイスを通して明確にすることができています。



まさに「自らの学びの過程に目を向け学習のサイクルを回している主体的な姿」だと感じます。ＩＣＴの活用を通してこうした学びを積み重ねた生徒達は、卒業した後もそれぞれの目標や夢の実現に向け、困難に出会っても自己調整を重ねながら粘り強く生きていくことだと思います。

【ＩＣＴ教育推進委員会に参加された先生方の感想や自校の取組】

・いつも思いますが、「誰か」ではなく「全員」で先生方が取組まれていると感じます。だからこそ子どもたちにもタブレット活用が浸透していると感じました。
・デジタルとアナログを絶妙にミックスされた美術の授業はとても面白かったです。手書きとタイピングの選択等も含めて、生徒たちが主体的に学ぶことができるような力をつけていきたいと感じました。
・小学校６年間の系統性を意識できるよう、情報モラル活用能力の系統表を各学年に配布しており、その表をもとに、１２月末には到達度を確認する場を設けたいと思っています。
・ＩＣＴ活用年間指導計画について、小・中のＩＣＴ推進部長と研究主任が冬期休業中に集まって話し合いを行う予定です。また、ＩＣＴ支援員も話し合いに参加していただく予定です。

〇当日は、加地市長、見城副市長をはじめ、市議会議員、県立高等学校の先生方にも授業の様子を参観していただきました。ありがとうございました。

「小郡市の小中学生の成長と将来が楽しみです！」

小郡市副市長　見城　俊昭

味坂小学校の「ICT 公開授業」の視察では、僅か１年間という短期間で、学習ツールとしての ICT が定着してることに驚きました。そして、大原中学校の美術の「ICT 公開授業」の視察では、美術科と技術科がコラボしたような未来型教育スタイルを楽しみながら学習している生徒の姿に感動しました。ICT の「C」は「Communication」（伝達力）、「Cooperation」（協働力）、「Critical　thinking」（思考力・判断力）、「Creativity」（創造力）などが意味づけられますが、この「C」を学ぶ高い教育が、大原中では実践されており、次代を担う生徒に求められる社会的スキルを着実に身に着けています。このような学習成果に導いておられる「小郡市 ICT 教育推進委員会」の先生方をはじめ、高い意識と使命感を持って取り組んでいただいている小郡市の小中学校の先生方に心から感謝と敬意を表します。

【お知らせ】

〇小郡市の教職員用タブレット端末から活用できる共有フォルダを整理しています。教材の共有等に積極的に御活用ください。
〇冬季休業期間中にタブレット端末のインターネット検索における履歴の確認を行います。
〇今後、小郡市ICT教育推進ロードマップに基づき、「ICT教育に係る評価」及び「タブレット等の活用に係るアンケート」を実施する予定です。（２月上旬予定）
市の指標、自校での達成状況についてご確認ください。

【お願い】

〇冬季休業期間中の「タブレット端末の持ち帰り」について
タイピングスキル（市指標：１分間当たり小学校中学年30文字、小学校高学年40文字、中学校50文字）の取組等、計画的な実施をお願いします。
〇「インターネット上の人権課題に係る状況の把握」について
各学校の事例等、情報提供をお願いします。（12/16　〆切）
〇「PC教室の今後の活用等」について
調査票の提出をお願いします。（12/26　〆切）